

VIII 附 録

消防沿革の概要

歴代消防長・消防署長

車両一覧

消 防 沿 革 の 概 要

年 月	事 項
明治10年 4月	平戸に私設消防組が柄長組として発足
明治20年 4月	火消組と改名される。
明治27年 8月	私設平戸町消防組発足
明治44年 6月	私設平戸村田助浦消防組発足
大正 8年 (推)	私設上下中津良、私設猪渡谷、私設堤消防組発足
大正 9年 4月	私設平戸村薄香浦消防組発足
	7月 私設宝亀、私設木ヶ津消防組発足
大正10年 2月	私設津吉、私設古田消防組発足
大正11年 5月	私設紐差消防組発足
大正14年 7月	私設川内浦消防組発足
(推)	私設度島消防組発足
昭和 2年 1月	私設平戸町白浜消防組発足
不詳	私設獅子、私設根獅子、私設志々伎岡消防組発足
昭和 5年 1月	公設中野村消防組発足
	6月 公設紐差村消防組発足
昭和 7年 6月	公設平戸町消防組発足
(推)	公設津吉村、公設志々伎村、公設中津良村消防組発足
昭和 9年 5月	公設獅子村消防組発足
昭和14年 4月	上記各消防組は警防団令施行により各警防団となり防空の任務が加わる。
昭和22年10月	勅令消防団施行により警防団を解団し各消防団となる。
昭和23年 3月	消防組織法の施行により、勅令消防団を廃止
昭和30年 1月	1町6ヶ村合併平戸市となる。
	市制施行により各消防団の町村名を除き平戸市を冠称する。
昭和31年 8月	平戸市消防団発足
昭和38年 1月	平戸市消防団 1団28ヶ分団 1,134名となる。
昭和46年 4月	平戸市消防本部、消防署設置
	初代消防長 橋口善治 就任(署長兼務)
	消防職員 30名採用
	救急車1台日本自動車工業会より寄贈を受ける。
	6月 分団統合により19ヶ分団 755名となる。
昭和47年 2月	消防本部、消防署庁舎落成、移転(戸石川町)
	3月 消防大学校上幹2 1名入校
	4月 消防長兼消防署長 下川 勇 就任
	消防通信一斉指令台設置
	無線電話設置
昭和48年 4月	ヘリポート新設(南部 辻町)
昭和49年 3月	生月出張所設置のため生月消防事務委託について市議会議決
	4月 救急車1台 日本船舶振興会より寄贈を受ける。
昭和50年 3月	ヘリポート新設(度島町)
	4月 消防職員 10名採用
	平戸市消防署生月出張所開所
昭和50年 6月	消防長事務取扱 平戸市助役 酒井勝一 就任
昭和51年 9月	屈折はしご付消防ポンプ自動車、工具車、広報車へ無線電話設置
	10月 消防長 三輪宇三郎 就任(署長兼務)
昭和53年 3月	木引田町味のタウン建物大火災9棟全焼
	6月 豪雨により大久保町地すべり災害発生(死者4名)
昭和54年 1月	消防大学校救急科 1名入校

年 月	事 項
昭和 5 5 年 1 月	消防大学校救急科 1 名入校
4 月	消防長兼消防署長 西山忠義 就任
5 月	消防職員 1 名採用
6 月	分団編成替えにより 21 ヶ分団とする。
昭和 5 6 年 1 0 月	救急車 1 台日本消防協会より寄贈を受ける。 車庫増設（庁舎横）
昭和 5 7 年 4 月	県下消防職員意見発表会（平戸市開催）
7 月	九州地区消防救助技術指導会 2 名出場（長崎市）
1 0 月	消防団員の定員条例改正に伴い 670 人となる。
1 1 月	小型動力ポンプ 1 台日本損害保険協会より寄贈を受ける。
昭和 5 8 年 2 月	八市正副団長会開催（平戸市開催）
4 月	消防職員 1 名採用
6 月	消防職員 1 名採用
9 月	長崎県消防ポンプ操法大会 第 16 分団出場 消防職員 1 名採用
1 1 月	消防相互応援協定訓練実施（平戸市開催）
昭和 5 9 年 4 月	消防長事務取扱者 岩崎久幸 就任 消防職員 12 名採用
5 月	県消防長会警防担当課長会（平戸市開催）
9 月	平戸市消防署中津良出張所庁舎落成
1 0 月	平戸市消防署中津良出張所開所
1 1 月	無線電話機（固定、移動）各 1 台購入 防火広報車 1 台日本防火協会より寄贈を受ける。 消防大学校上級幹部科 1 名入校
昭和 6 0 年 6 月	救急車 1 台日本損害保険協会より寄贈を受ける。
1 0 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（大分市）
1 1 月	消防長 山西琢磨 就任（署長兼務）
昭和 6 1 年 7 月	第 39 回長崎県消防団大会（平戸市開催） 長崎県消防長会予防事務研修会（平戸市開催）
8 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（熊本市） 長崎県消防長会予防担当課長会議（平戸市開催）
1 1 月	救急指令装置 I 型設置（本署通信室）
昭和 6 2 年 2 月	救急車 1 台日本自動車工業会より寄贈を受ける。（生月出張所） 長崎県下消防吏員統一昇任試験（司令補・士長）
4 月	消防職員 2 名採用
7 月	九州地区消防救助技術指導会 5 名出場（佐賀市） 救急車 1 台 日本消防協会より寄贈を受ける。
昭和 6 3 年 3 月	本署訓練主塔（17m）新設・空気充填所新設
4 月	消防長兼署長 阿部善次 就任 救急業務応援協定締結
5 月	消防大学校上級幹部科 1 名入校
7 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（鹿児島市）
8 月	長崎県下署長会議（平戸市開催）
9 月	集団事故想定訓練（中部地区）
1 1 月	本署訓練補助塔（7 m）新設
1 2 月	第 1 回平戸市婦人・幼年防火の集い（文化センター）
平成 元年 3 月	消防無線通信施設整備工事（屏風岳中継局新設、本署更新、上床更新）
5 月	長崎県消防長会総務担当課長会議（平戸市開催）
7 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（長崎市）

年	月	事 項
平成 元年	8 月	査察車 1 台日本消防協会共済事業により寄贈を受ける。
	9 月	消防大学校予防科 1 名入校 集団事故想定訓練（南部地区） 消防ラッパ隊発足
	1 1 月	長崎県婦人、幼少年防火の集い（文化センター）
平成 2 年	3 月	平戸市消防団消防庁長官表彰旗受賞
	4 月	消防職員 1 名採用 消防本部事務室改装
	5 月	消防大学校警防科 1 名入校
	6 月	消防音楽隊発足
	7 月	消防監 1 名昇任
	9 月	集団事故想定訓練（北部地区） 八市正副団長会（平戸市開催）
	1 0 月	九州地区消防駅伝大会 8 名出場（熊本市） 消防大学校救急科 1 名入校
平成 3 年	4 月	長崎県下春季消防長会総会（平戸市開催） 消防大学校警防科 1 名入校
	6 月	平戸市総合防災訓練（岩の上町白浜埋立地）
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（北九州市）
	9 月	はしご付消防ポンプ自動車購入（本署） 消防大学校予防科 1 名入校 集団事故想定訓練（生月町）
	1 0 月	平戸市消防本部創立 20 周年式典（平戸文化センター）
	1 1 月	第 1 回自衛消防隊初期消火操法大会
平成 4 年	4 月	消防長兼署長 鴨川健次郎 就任 消防職員 1 名採用
	5 月	消防大学校上級幹部科 1 名入校
	7 月	緊急通報システム開通
	9 月	九州地区消防救助技術指導会 6 名出場（人吉市） 軽可搬消防ポンプ 3 台配置（日本消防協会より寄贈） 集団事故想定訓練（中部地区）
	1 1 月	九州地区消防職員駅伝大会 出場
平成 5 年	5 月	平戸市総合防災訓練（宝亀町港湾埋立地）
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（大分市）
	9 月	集団事故想定訓練（南部地区）
	1 0 月	消防大学校予防科 1 名入校
	1 1 月	九州地区消防職員駅伝大会 出場
平成 6 年	4 月	消防職員 2 名採用 消防大学校救助科 1 名入校
	5 月	第 47 回長崎県消防団大会（平戸市開催）
	7 月	九州地区消防救助技術指導大会 6 名出場（沖縄市）
	9 月	集団事故想定訓練（北部地区）
	1 1 月	長崎県消防長会 警防担当課長会議（平戸市開催）
平成 7 年	4 月	消防長 小西謙持 就任
	7 月	九州地区消防技術指導大会 4 名出場（佐賀市）
	8 月	平戸市総合防災訓練（志々伎町港湾埋立地）
	1 1 月	長崎婦人、幼少年防火の集い（文化センター）
平成 8 年	8 月	救急車 1 台 日本消防協会より寄贈を受ける。
平成 9 年	1 月	消防大学校予防科 1 名入校

年	月	事 項
平成 9 年	3 月	消防団緊急伝達システム運用開始
	4 月	消防長 濱田晴夫 就任
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 1 名出場（佐世保市）
	9 月	平戸市総合防災訓練（川内町港湾埋立地）
平成 10 年	4 月	消防職員 2 名採用
平成 11 年	1 月	消防大学校幹部科 1 名入校
	4 月	消防長 前田初次 就任
		消防団員定数 670 名を 640 名に条例改正
	10 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（福岡市）
	12 月	救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
平成 12 年	4 月	消防職員 3 名採用
		救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
	5 月	消防団員定数 640 名を 625 名に条例改正
	10 月	平戸市総合防災訓練（旧根獅子小学校跡地）
平成 13 年	1 月	救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
	5 月	消防団員定数 625 名を 600 名に条例改正
	7 月	消防大学校火災調査科 1 名入校
		救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
	10 月	九州地区消防救助技術指導会 3 名出場（沖縄市）
平成 14 年	2 月	平戸市消防本部創立 30 周年式典（平戸文化センター）
	3 月	消防団緊急伝達システム増設（12 ヶ所）
	4 月	消防長 松本聖二 就任
		救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
	7 月	消防大学校上級幹部科 1 名入校
		平戸市総合防災訓練（大志々伎町垣留地区埋立地）
平成 15 年	4 月	消防本部の機構改革 3 係を 3 課 5 係とする。
		消防職員 1 名採用
		救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
平成 16 年	4 月	消防職員 1 名採用
	6 月	平戸市総合防災訓練（川内町港湾埋立地）
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 4 名出場（国分市）
	10 月	救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
平成 17 年	4 月	消防長 松尾茂廣 就任
		消防職員 1 名採用
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 4 名出場（長崎市）
		全国消防救助技術大会 3 名出場（さいたま市）
	10 月	新平戸市誕生 1 市 2 町 1 村合併（旧平戸市、生月町、田平町、大島村）
		平戸市消防団 定数 1,079 名 34 ヶ分団
		田平町消防事務委託（松浦地区消防本部）
		救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
平成 18 年	4 月	消防職員 9 名採用
	8 月	全国消防救助技術大会 3 名出場（札幌市）
平成 19 年	4 月	松浦地区消防組合消防本部から田平出張所が平戸市消防本部へ移管（移行者 8 名）
		警防課に救急救命係を新設し、3 課 6 係とする。
		消防職員 7 名採用
	8 月	全国消防救助技術大会 2 名出場（東京都）
	9 月	消防職員 2 名採用
		はしご付消防自動車 1 台購入（本署）

年	月	事	項
平成 19 年	10 月	平戸市消防署大島出張所開所 女性消防団員 12 名入団（本部付） 第 18 回全国女性消防操法大会（平戸市女性消防団 7 名出場）	
平成 20 年	4 月	消防職員 1 名採用	
	6 月	平戸市総合防災訓練（中部市民運動場）	
	9 月	消防職員 3 名採用	
平成 21 年	4 月	消防職員 3 名採用 平戸市消防団 分団統合により 30 ヶ分団	
	8 月	全国消防救助技術大会 3 名出場（横浜市）	
	9 月	消防職員 3 名採用	
平成 22 年	4 月	長崎県防災航空隊へ 1 名派遣 消防職員 3 名採用	
	6 月	平戸市総合防災訓練（田平町釜田港）	
	8 月	全国消防救助技術大会 5 名出場（京都府）	
	9 月	消防職員 2 名採用 救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）	
平成 23 年	3 月	東日本大震災発生 M9.0（3 月 11 日）	
	3 月 14 日	緊急消防援助隊 派遣（消火部隊、後方支援部隊 2 隊 5 名） ・活動場所：長崎県隊として久慈市白前・半崎地区、九戸郡野田村を搜索 ・活動期間：派遣期間 11 日間うち 4 日間	
	4 月	消防職員 1 名採用	
	9 月	消防職員 2 名採用 救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）	
	10 月	消防大学校幹部科 1 名入校	
平成 24 年	4 月	消防長 中村幸一 就任 消防職員 3 名採用	
	6 月	平戸市総合防災訓練（大島村的山川内 的の山外港埋立地）	
	9 月	消防職員 7 名採用 ひらど消防フェスタ 2012 開催	
平成 25 年	4 月	救急救命士養成所 1 名派遣（東京都）	
	8 月	全国消防救助技術大会 3 名出場（広島市）	
	10 月	消防大学校警防科 1 名入校	
平成 26 年	4 月	長崎県防災航空隊へ 1 名派遣	
	6 月	平戸市総合防災訓練（大佐志町古田漁港）	
	11 月	ひらど消防フェスタ 2014 開催	
平成 27 年	3 月	消防本部・消防署新庁舎及び訓練塔完成（岩の上町） 高機能消防通信指令システム運用開始（離島型 NEC） 消防・救急デジタル無線運用開始 （白岳・緑ヶ岡・慈眼岳・早福中継局開設） 救急業務総合支援システム（ATAS）運用開始	
	4 月	消防長 松山敏雄 就任 消防職員 2 名採用 警防課に通信指令係を新設し、3 課 7 係とする。 機能別消防団員 16 名入団	
	10 月	通信指令係を専従化とする。（6 名）	
平成 28 年	3 月	アナログ無線中継局解体撤去（上床・屏風）	
	4 月	消防職員 2 名採用	
	4 月 14 日	平成 28 年熊本地震発生 前震・震度 7（4 月 14 日） 平成 28 年熊本地震発生 本震・震度 7（4 月 16 日）	

年	月	事 項
平成 28 年	4 月	平成 28 年熊本地震 平戸市・震度 4（4 月 16 日） 緊急消防援助隊 派遣（消火小隊、後方支援小隊 延べ 8 隊 20 名） ・活動場所：長崎県大隊として熊本市・益城町・南阿蘇村を捜索 ・派遣期間：第 1 次派遣隊（4 月 14 日から 4 月 17 日） 第 2 次派遣隊（4 月 17 日から 4 月 20 日） 第 3 次派遣隊（4 月 20 日から 4 月 24 日） 第 4 次派遣隊（4 月 24 日から 4 月 25 日）
	8 月	消防大学校予防科 1 名入校 全国消防救助技術大会 3 名出場（松山市）
	10 月	ひらど消防フェスタ 2016 開催
平成 29 年	3 月	消防大学校新任教官科 1 名入校
	4 月	消防長 川口智和 就任 長崎県消防学校へ教官 1 名派遣
	6 月	消防大学校火災調査科 1 名入校
	7 月	平戸市総合防災訓練（古江町下中野漁港） 平成 29 年九州北部豪雨発生（7 月 5 日）
	7 月 6 日	緊急消防援助隊 派遣（消火小隊、後方支援小隊 延べ 14 隊 35 名） ・活動場所：長崎県大隊として福岡県東峰村、朝倉市を捜索 ・派遣期間：第 1 次派遣隊（7 月 6 日から 7 月 8 日） 第 2 次派遣隊（7 月 8 日から 7 月 11 日） 第 3 次派遣隊（7 月 11 日から 7 月 14 日） 第 4 次派遣隊（7 月 14 日から 7 月 17 日） 第 5 次派遣隊（7 月 17 日から 7 月 20 日） 第 6 次派遣隊（7 月 20 日から 7 月 23 日） 第 7 次派遣隊（7 月 23 日から 7 月 25 日）
	12 月	水槽付消防ポンプ自動車(キャブス付) 1 台 緊援隊補助金にて購入 （中津良出張所）
平成 30 年	4 月	消防職員 2 名採用
	8 月	救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
	10 月	ひらど消防フェスタ 2018 開催（平戸市福祉健康まつり）
平成 31 年	1 月	消防大学校上級幹部科 1 名入校 広報車(消防団防災学習・災害活動車両) 1 台 本署へ配置 （公益財団法人 日本消防協会寄贈）
	4 月	消防職員 2 名採用
令和 元年	6 月	平戸市総合防災訓練（生月町生月漁港）
	9 月	消防職員 1 名採用
	10 月	消防大学校警防科 1 名入校 ひらど消防フェスタ 2019 開催（平戸市福祉健康まつり）
令和 2 年	4 月	消防長 本山繁治 就任 長崎県防災航空隊へ 1 名派遣、消防職員 1 名採用
	7 月	令和 2 年 7 月豪雨に伴う災害発生（7 月 3 日） 緊急消防援助隊 派遣（消火小隊、後方支援小隊 延べ 4 隊 10 名） ・活動場所：長崎県大隊として熊本県八代市を捜索 ・派遣期間：第 1 次派遣隊（7 月 4 日から 7 月 7 日） 第 2 次派遣隊（7 月 7 日、進出途中で引揚）
	8 月	救急救命士養成所 1 名派遣（北九州市）
令和 3 年	3 月	高規格救急車 1 台 生月出張所へ配置 （一般社団法人 日本自動車工業会寄贈） 平戸市消防署 生月出張所新庁舎完成

年	月	事	項
令和 3 年	6 月	平戸市総合防災訓練（大石脇町旧根獅子小学校跡地）	
	8 月	消防大学校予防科 1 名入校	
	1 1 月	消防ポンプ自動車(キャブ付) 2 台購入 本署へ配置	
		高規格救急車 1 台 田平出張所へ配置	
令和 4 年	4 月	消防職員 1 名採用	
	7 月	救急自動車 1 台購入 大島出張所へ配置	
		九州地区消防救助技術指導会 4 名出場（諫早市）	
令和 5 年	2 月	消防ポンプ自動車(キャブ付) 1 台購入 大島出張所へ配置	
	4 月	消防職員 2 名採用	
	6 月	平戸市総合防災訓練（田平町釜田港）	
	7 月	九州地区消防救助技術指導会 4 名出場（宮崎市）	
	8 月	全国消防救助技術大会 5 名出場（札幌市）	
	1 0 月	消防職員 3 名採用	
令和 6 年	2 月	指揮車(消防団防災学習・災害活動車両) 1 台 本署へ配置 （公益財団法人 日本消防協会寄贈）	
	3 月	消防ポンプ自動車(キャブ付) 1 台購入 生月出張所へ配置	
	4 月	消防長 岩田英治 就任	
		消防職員 5 名採用	
	7 月	消防職員 1 名採用	
	8 月	全国消防救助技術大会 5 名出場（千葉市）	
令和 7 年	3 月	平戸市消防署 田平出張所新庁舎完成	
	4 月	消防職員 6 名採用	
	6 月	本署ポンプ 1 号車と中津良タンク車を配置換え	
	7 月	救急自動車 1 台購入 本署へ配置	
		九州地区消防救助技術大会 4 名出場（沖縄県中頭郡中城村）	
		平戸市総合防災訓練（大島村の山港）	

歴 代 消 防 長

代 別	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	橋 口 善 治	自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日	
2 代	下 川 勇	自昭和47年4月1日 至昭和50年5月31日	
3 代	酒 井 勝 一	自昭和50年6月1日 至昭和51年10月6日	事務取扱（市助役）
4 代	三 輪 宇三郎	自昭和51年10月8日 至昭和55年3月31日	
5 代	西 山 忠 義	自昭和55年4月1日 至昭和59年3月31日	
6 代	岩 崎 久 幸	自昭和59年4月1日 至昭和60年10月31日	事務取扱（市助役）
7 代	山 西 琢 磨	自昭和60年11月1日 至昭和63年3月31日	
8 代	阿 部 善 次	自昭和63年4月1日 至平成4年3月31日	
9 代	鴨 川 健次郎	自平成4年4月1日 至平成7年3月31日	
10 代	小 西 謙 持	自平成7年4月1日 至平成9年3月31日	
11 代	濱 田 晴 夫	自平成9年4月1日 至平成11年3月31日	
12 代	前 田 初 次	自平成11年4月1日 至平成14年3月31日	
13 代	松 本 聖 二	自平成14年4月1日 至平成17年3月31日	
14 代	松 尾 茂 廣	自平成17年4月1日 至平成24年3月31日	
15 代	中 村 幸 一	自平成24年4月1日 至平成27年3月31日	
16 代	松 山 敏 雄	自平成27年4月1日 至平成29年3月31日	
17 代	川 口 智 和	自平成29年4月1日 至令和2年3月31日	
18 代	本 山 繁 治	自令和2年4月1日 至令和6年3月31日	
19 代	岩 田 英 治	自令和6年4月1日	

歴 代 消 防 署 長

代 別	氏 名	在 職 期 間	備 考
初 代	橋 口 善 治	自昭和46年4月1日 至昭和47年3月31日	
2 代	下 川 勇	自昭和47年4月1日 至昭和50年6月1日	
3 代	三 輪 宇三郎	自昭和50年6月3日 至昭和55年3月31日	
4 代	西 山 忠 義	自昭和55年4月1日 至昭和59年3月31日	
5 代	山 西 琢 磨	自昭和59年4月1日 至昭和63年3月31日	
6 代	阿 部 善 次	自昭和63年4月1日 至平成4年3月31日	
7 代	鴨 川 健次郎	自平成4年4月1日 至平成7年3月31日	
8 代	山 口 和 夫	自平成7年4月1日 至平成12年3月31日	
9 代	大 石 嗣 男	自平成12年4月1日 至平成16年3月31日	
10 代	前 田 繁	自平成16年4月1日 至平成18年3月31日	
11 代	谷 田 美 幸	自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	
12 代	高 本 健 治	自平成18年10月1日 至平成20年3月31日	
13 代	神 田 篤 政	自平成20年4月1日 至平成24年3月31日	
14 代	川 村 茂 実	自平成24年4月1日 至平成26年3月31日	
15 代	川 口 智 和	自平成26年4月1日 至平成28年3月31日	
16 代	本 山 繁 治	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日	
17 代	篠 田 修 一	自平成29年4月1日 至令和2年3月31日	
18 代	大 石 宇 一	自令和2年4月1日 至令和5年3月31日	
19 代	岩 田 英 治	自令和5年4月1日 至令和6年3月31日	
20 代	大 石 宇 一	自令和6年4月1日 至令和7年3月31日	
21 代	西 勝 明	自令和7年4月1日	

車両一覧



水槽（800L）付消防ポンプ車(キャブス付)



水槽（1,500L）付消防ポンプ車(キャブス付)



はしご車



救助工作車



高規格救急車(トヨタハイエース)



高規格救急車(C-CABIN)



救急車



指揮車



指揮車



査察車



広報車



HIRADO